

高崎市地域福祉通信

第4回地域福祉市民会議の開催

8月9日（金）午後1時30分から高崎市役所第172会議室において、第4回地域福祉市民会議を開催し、35人の委員の方々にご出席いただきました。

当日は、事務局説明（ボランティアについて）の後、グループワークを行い、アドバイザーに講評をいただきました。

第4回地域福祉市民会議の主な内容

●事務局説明（ボランティアについて）

- ・ボランティア活動は、自発性、無償性、社会性の3つで定義付けされることが多い。

自発性：指示や命令ではなく、自分の意思で活動する。

無償性：活動の対価を求めない。（実費弁償は可）

社会性：自己の利益ではなく、社会のために活動する。

- ・ボランティアには、秘密を厳守する、他人に迷惑を掛けないなど、責任を持った活動が求められる。
- ・ボランティア活動は、個人又はグループで実施されており、その内容は多岐に渡っている。活動場所も、福祉施設や公園など様々である。
- ・ボランティア活動を促進していくためには、市民公益活動促進センター（ソシアス）やボランティアセンターなどの中間支援組織の強化が重要である。



事務局説明の様子

●グループワーク（意見交換）の結果について

第4回会議全体テーマ「誰もがボランティア等に参加できる福祉のまちづくり」

グループNo.	個別テーマ
	グループワークでの主な意見
グループ1	地域がボランティアに求める活動とは？
	・地域のニーズは、高齢、障害、子ども、その他に分類して対応や担い手を考えると効果的ではないか。（活動例 高齢者のゴミ出し補助 など）
グループ2	高崎版『地域ボランティア』を考える
	・広報や回覧板などの説明及び読み聞かせボランティア ・歴史や文化財のガイドボランティア など

グループ3	団塊世代を地域デビューしやすくするための取り組み
	・団塊世代の人たちに対して、特技や活動希望などのアンケート調査を実施し、調査結果を地域ニーズとマッチングさせて活動してもらう など
グループ4	身近なボランティア（近隣での助け合い・支え合い）が活性化するための取り組み
	・活動したい人と手助けを必要とする人をつなぐコーディネーターの設置 ・町内清掃や子ども同士のつながりを活用した人間関係づくり など
グループ5	ボランティアをしたい人達が活動に結び付かないのはなぜか？
	・若者向けのボランティアメールマガジンを配信する ・小学生等に対してボランティアの心を育成する取り組みを行う など

●菱沼アドバイザーによるグループワーク講評

- ・住民の力を生かす地域の福祉活動は、見守り・声かけ、交流、生活支援の3つに大別できる。
- ・活動の根底となるものは、ニーズや活動内容についての学習である。
- ・支援の方法については、手段的支援（専門的なサービス提供）と、情緒的支援（気持ちをやわらげる）がある。
- ・「手段的支援」は主に専門職が行うものであり、地域住民が行うボランティアに求められるものは、「情緒的支援」である。
- ・地域の福祉活動を進めるためには、地縁組織やNPO、企業などが行うボランティア活動との協働も必要になる。
- ・団塊世代の方々の豊富な経験を地域の福祉活動に生かしてもらうためには、何がしたいのか、何ができるのかを明らかにしておく必要がある。
- ・コーディネーターの存在や、子どもを介してのつながりづくりも大変重要である。
- ・地域でのボランティア活動を始めてもらうためには、世代に合わせた情報発信を行うことや、地域のニーズと活動者の自己肯定感を結び付けてあげることなどが必要である。



グループワークの様子



アドバイザー講評の様子